



あなたのまちのコミュニティ活動情報誌

コミュニティ しづおか

2026

1月
No.181



奉納相撲で育む地域愛と若者の成長

高松神社奉納相撲実行委員会（御前崎市）

▶10月の第2土曜日に開催する高松神社の大祭では、菊川市の河東地区、御前崎市の門屋、塩原、合戸地区の氏子による奉納相撲が行われている。五穀豊穫や地域の安寧を祈る祭礼として、江戸時代後期からおよそ200年続く伝統行事で、自分の町内の青年力士が出場すると土俵を囲んだ観衆から歓声やヤジが飛び盛り上がる。

▶昭和62年から小、中学校のPTAにも声を掛け協力を頼み、平成2年には子ども相撲や餅投げを取り入れ、地域住民の一大イベントへ変化。人づくり、地域づくり、子どもや青年たちの地域愛、成長が奉納相撲にある。

◇宮司：中山貞雄さん（問合せ・0537-86-3428（高松神社）【情報提供・沖二三男】

Topics トピックス

活動賞審査結果 P2~3
令和7年度「コミュニティ活動賞」審査結果

地域訪問記（裾野市） P6
クローズアップ（菊川市） P7



Community

のりづき・りえ



令和7年度 コミュニティ活動賞

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞3団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を令和8年2月7日に開催するコミュニティフォーラム2026の席上で行います。

※当協議会HPで、全団体の活動内容を紹介しています。



優秀賞

安心して住める地域づくり

青島第8助けあいの会 はちすけ(藤枝市)



犬の散歩代行

青島第8助けあいの会 はちすけは、高齢者、障がい者、子育て世代の「ちょっとした困りごと」を支援するため、2020年11月に青島第8自治会（6町内会統括）で発足しました。

「町内会だけでは十分な支援が難しい」という芙蓉台町内会の要望を受け、自治会全体で立ち上がった有償ボランティア組織です。2024年度は、約70名のボランティアが登録し、利用者92世帯から合計553件の依頼に対応しました（内ゴミ出し支援は325回）。

また、ボランティア同士の親睦会を定期的に開催し、町内会の枠を超えた住民のつながりを育むことで、地域全体の「安心なまちづくり」を支える力となっています。

だれもが安心して住み慣れたまちで暮らし続けられるやさしい地域づくり

向笠社会福祉協議会(磐田市)



合同敬老会「80過ぎても元気会」

向笠社会福祉協議会は、1999年から、地域住民の主体的な参画に基づいて、生活課題を協議し、その解決に取り組んでいます。特にコロナ禍以降は、自粛生活で薄れた地域交流を取り戻すため、「面白い」と感じてもらえる新たな企画を実施しています。

具体的な活動として、若者の参画を促す「Communus」や、男性高齢者向けの「レコード喫茶昭和堂」があります。また、単位自治会での開催が難しくなった敬老会を「合同敬老会“80過ぎても元気会”」として社協が企画・実施しています。これらの取り組みを通じ、世代や性別を超えた新たな交流の場を創出し、住民が互いに支え合う共生社会の実現に大きく貢献しています。

白須賀地区のよさを生かしながら、人のつながりを広げていく地域づくり

白須賀地区自治会連合会(湖西市)



サマーフェスタin白須賀

6つの自治会からなる白須賀地区自治会連合会は、近年、自治会への加入が減少する中で、必要性を再認識いただきため、組織と活動の見直しを進めています。

【組織運営の効率化】 役員の負担軽減策として、定期例会や役員会の回数を削減し、レジメ作成により会議時間の短縮を図りました。

【魅力的なイベントの創出】 大勢の地区民が参加したくなるイベントを企画。実行委員の負担軽減のため、少ない人数で準備できるよう、手順や役割を明確化した資料を作成。

また、地域発展には全住民の力が必要と考え、自治会連合会が中心となり、さまざまな地域団体に呼びかけ「シラスカ協議会」を発足。多様な世代や考え方を生かした取り組みを推進しています。

優良賞

御殿場市 中山下区地域福祉推進委員会

裾野市 ふれあい塾本村下

沼津市 沼津市第五地区コミュニティ推進委員会

静岡市 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会

島田市 牧之原公園マルシェ実行委員会

浜松市 (一社) MIYAKODA

奨励賞

裾野市 傾聴ボランティアほっとスペース♡みみい

函南町 函南間宮天池を守る会

静岡市 清水おやこ劇場

静岡市 わっしょい小坂

磐田市 竜洋住みよいまちづくり協議会

審査総評

(望月誠一郎
審査委員長)

本年度のコミュニティ活動賞には、9市1町から14団体の応募があり、厳正な審査の結果、優秀賞3団体、優良賞6団体、奨励賞5団体が決定しました。審査は、各審査委員が応募資料の事前評価と審査会での意見交換を経て慎重に行われ、「いずれの活動もレベルが高く、評価に差を付けるのが難しい」という声が多く聞かれました。

本年度は、安全・安心で元気な地域コミュニティ構築に向けた自治会、防災、地域活性化などの活動を新発想で再構築して取り組む団体からの応募が目立ちました。また、女性をリーダーとして活躍されている活動団体が多く見られた点も大きな特徴でした。

審査においては、「住民の困り」とを助け合う仕組みを構築し、高齢者の見守りにもつなげている団体、「現在の住民課題を聞き、性別・年代を超えて楽しく参加できる企画や廃校利用などに取り組む団体」、「自治会活動の役員負担軽減に向けた改革や、住民が「地域に住んで良かった」と思える地域づくりへの取り組みの団体」などが、審査委員の高い評価を得ました。

このほか、都市部の防災福祉、コミュニティカフェ、子育てサロン、公園の活性化に取り組む団体も評価を受けました。さらに、農業、商業、観光などジャンルを超えて組織された団体には、新しいコミュニティづくりの担い手としての可能性に大きな期待が寄せられました。

一方、審査の過程では、活動内容自体は高く評価できても、審査基準である「活動範囲が中学校区を対象とした地域住民や自治会等との連携」について、応募資料での説明が不足していたために高い評価が得られなかつたケースも見受けられました。

次年度以後も、県下各地の団体が、地域課題の解決に向け、知恵と工夫を凝らし、これまでにない新たなチャレンジ精神をもって積極的に活動に取り組まれ、本賞に多数応募されることを期待しております。
(掲載にあたり一部省略しました。)

まちからむらから

沼津市

中学生が地域で活躍する場をつくる

中石田ジュニアリーダーズ
クラブ(NJC)



大いに盛り上がったシルエットクイズ

▶去る10月12日、大岡地区にある神明神社で中石田自治会が主催する秋祭りが開催され、今年から中学生7人と地域の大人3人からなる「中石田ジュニアリーダーズクラブ(NJC)」がお手伝いに加わった。

▶元々中学校PTA組織が地域行事のお手伝いをしていたが、時代が変わり難くなっていた。以前に子ども会などで自治会に関わりのあった奥村さんが、事情を知り、回覧板で中学生に呼びかけると、やる気ある7人から応募があった。地域活動の貢献の場、仲間づくりの場を目指し令和7年4月に発足。月1回の定例会や子ども会のお手伝い等の活動をしている。

▶祭りでは、受付業務と小学生向けの余興を自治会から依頼され、クイズ大会を実施。「小学生の圧が凄かった」「緊張したけど楽しかった」と中学生たち。「大人のメンバーが管理側に回らぬよう、仲間という意識で参加してます」と奥村代表。今後も楽しみながら地域に貢献していく、地域の戦力になれるよう活動の幅を広げていく。

◇代表:奥村好哉さん(問合せ・080-6592-8610)

【情報提供・木村優子】

静岡市駿河区

親睦と賑わい創生で地域振興に貢献

わっしょい小坂
おさか

▶令和6年3月、駿河区小坂地区(約277世帯)の親睦と賑わいの創生、長田南学区の地域振興に貢献を目標に「わっしょい小坂」が発足した。代表の小野田さんが地元の仲間に声を掛け集まった16人で、昨年23年ぶりの盆踊りを開催した。

▶月1回の定例会では、自由に意見を出し合い、各々が出来ることを積極的に採用し、行動に移すことを心がけている。この中で盆踊り復活の声が上がり実施することになった。大勢の子どもが参加し、帰省中の若い世代のプチ同窓会の場になるなど賑わいを創生できた。大いに賑わったが、盆踊りに掛かる費用は協賛金に頼らざるを得ない状況にあり課題でもある。

▶現在、「盆踊り」「年末朝市」「小坂川河津桜を愛でる会」の3つの活動のほか、地域の草刈りや他団体への協力も行っている。わっしょいの賛同者を増やすアイディアを皆で考えながら、楽しく活動を継続していく。

※「小坂川河津桜を愛でる会」を2月に開催。インスタチェックしてね!

◇代表:小野田由美子さん(問合せ・onodadesu227@gmail.com)

【情報提供・近藤 武】



小坂川河津桜を愛でる会での記念写真

島田市

多世代交流と健康づくり「リアル野球盤」

リアル野球盤協会



ホームランを狙って打ち返す参加者

▶代表の鈴木さんが発案した「リアル野球盤」は、野球盤の楽しさと実際の運動を融合させ、障がい者も幼児も高齢者も同じ試合に参加可能なユニバーサルスポーツである。2010年協会を発足し、賛同してくれた仲間6人と共に広めている。

▶2015年から島田市の金谷地区を主会場にリアル野球盤大会を開催。第9回目となる今年は16チーム160人が参加した。できるだけ多くの団体に協力していただくのが理想と励んだ結果、年を追うごとに協力団体が増えて地元に定着したイベントになった。

▶ルールは単純で用具も安全性に配慮。高齢者施設や保育園、自治会イベントでの体験等を通じ、参加者の笑顔と健康、そして世代を超えた新たな「地域のつながり」を育んでいる。杖を忘れるほど夢中になるお年寄りや、親に付き添われて打席に立った3歳の子が、次は1人で打席に立ちホームランを打って喜ぶ姿がその魅力を物語っている。

※道具のレンタル(有料)しています。

◇会長:鈴木久雄さん(問合せ・090-1281-4578)

【情報提供・村松遼太郎】



磐田市

「歌声喫茶」で交流する機会を作ろう

大原新町歌声喫茶



フルートとベースの音色に合わせて歌います

▶磐田駅から車で南に約8分。204世帯が住む住宅団地の大原新町がある。2013年、当自治会長だった平木さんが引きこもりがちな高齢者が交流する機会を作ろうと歌声喫茶を試みた。1年間の運営を経て評判が良ければ継続する予定だったが、気が付けば今年で12年目を迎えた。

▶毎月第4日曜日に集会所で“歌声喫茶”を開催。有志のスタッフ4人で運営をしており、回覧板やポスターを通じて周知活動を行っている。多い時には30人近くが参加。特徴的なのが、リクエストに応じベースとフルートの伴奏で様々な曲を歌うこと。リクエストに対応できない時は、次回までに練習し対応しているという。

▶自治会と連携し、行事が重ならないよう配慮。当初は高齢者を対象としていたが、団塊世代の参加者も増え歌を通じた良い交流の場となっている。

今後も、高齢者だけでなく新しく入居してきた家族も含め、お互いを知る機会となる「歌声喫茶」であり続けたい。

◇代表:平木敏雄さん(問合せ・0538-554-3110)

【情報提供・安部詠司】

森町

お茶の実で生まれた交流

南戸綿TMO
プロジェクトチーム

▶2019年に発足した南戸綿TMOは「荒廃茶園の整備と活用、地域住民の交流と活性化」を目的に活動をしている団体である。代表の村松さんが「荒廃茶園を活用できないか」と考えていた時に茶の実油の存在を知り、近所の人たちに呼びかけ、6人で会を結成した。

▶県の補助金を受け、荒廃茶園(9000m²)とその周辺農道の草刈り整備と茶の実の収穫を行っている。整備したことでのタケノコがたくさん出るようになり、町内会や子ども会に呼びかけてタケノコ掘りや竹製けん玉づくりなどのワークショップも開催。今年のクリスマス会には、竹灯籠を制作しようと考えている。

▶これまででは、情報発信はせず地域の中で活動をしてきたが、今年は森町出身で東京在住の方の企画により、10月に初の収穫体験イベントを実施。東京や石川、地元の高校生が参加し10キロ収穫できた。外部の人の力で更なる広がりを喜んでいる。(茶の実の買取価格は1キロ700円です)

◇代表:村松英男さん(問合せ・0538-85-4368) 【情報提供・山田勝恵】



10月の茶の実収穫イベントで若者と交流

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）



No.	市町	活動名	主 催 者	趣旨・目的	情報通信員
1	下田市	下田市立稲梓小学校の「アサギマダラのまち」	梓の丘にアサギマダラをよぼうプロジェクト（アサ呼ばプロ）	学校にアサギマダラを呼び込み、子どもたちの成長と地域住民との触れ合い	井出秀成
2	伊東市	楽しく美しいハーモニーをいつまでも！	レ・ソルシェール（魔女たち）	歌うことが生きがい！いつまでも歌い続けていきたい！	佐藤みつ子
3	沼津市	地域の居場所づくりを支え、盛り上げる	愛らぶ貯筋の会	イスに座ってできる体操「ちょっとくら体操」をメインに毎月開催	高村 光
4	御殿場市	「きょてんば」ボードゲームでつながりのきっかけを	ごてんばボードゲーム遊戯協会	ボードゲームで地域の交流の推進や持続可能な活動の創出を！	勝又長生
5	掛川市	写真展開催で地域の活性化	三井シニアクラブ写真サークル「写遊会」	メンバーが楽しく活動し、写真展を開催し地域の方に楽しんでもらう	安藤ミエ
6	湖西市	学校ビオトープを守り生かす地域活動	夢くらぶ21	地域づくりを通して生きがいを見つけ、豊かな地域をつくる	片山愛司
7	牧之原市	ふくしまんは子どもに福祉を伝える	憩の家みち	子どもたちに福祉の大切さを伝える活動	外部提供 石津道弘

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。

楽しいサツマイモ掘り

子どもと談笑する須藤理事長



今年は約5俵のお米を収穫

地域の宝、里山をこどもたちへ

NPO法人里山会公文名ファイブ（裾野市）

「公文名」皆さんはこの地名を読みますか？「くもみよう」と読みます。その名の由来は、平安時代の荘園を管理されていた役職名からきているそうです。2009年、裾野市公文名で発足した「NPO法人里山会公文名ファイブ」は、須藤九十九理事長が「自然を守り、子どもの頃に遊んだ里山を再びつくりたい」という思いから活動を始めました。現在は理事6人、会員40人が“地域の宝である里山をこどもたちへ”を合言葉に、森と田んぼを拠点に活動しています。副理事長の志田さんと理事の土屋さんにお話を聞きました。

私たちのミッション

団体が掲げる最終目標は、「里山を学び、つかい・まもり、つたえることで、生物多様性や持続可能な暮らしを未来へ引き継ぐこと」。この理念を実現するため、年間活動計画には里山を好きになってもらう様々な体験や学びが組み込まれています。

農地保全活動では、耕作放棄地の解消を目指し、約2反の農地を借り、農薬や化学肥料を使わない方法で稻作や野菜づくりを実施。収穫した米は「収穫祭」と題したイベントで食べるほか、市内酒店が手掛ける焼酎づくりに原料として提供。また、畑で栽培した農作物でピザ作りや藍のたたき染め体験、コミュニティ祭での販売も行います。

森林保全活動では、管理する森で生物探しやネイチャーゲームを楽しむ「森林オリエンテーリング」を開催。また、子ども広場の整備をはじめとした保全活動に加え、「さとやま自然楽校」と題した環境学習も実施しています。森や田んぼ、川に入り、自然観察や生き物調べを通じて、虫が苦手だった子どもが触れるようになるなど、自然への理解と関心を深めるきっかけとなっています。

活動がもたらす喜び

この活動は、里山に確かな変化をもたらしています。田んぼを始めて2年目にヤゴを見つけ、前年に田んぼが蘇ったことで生まれた命に、里山を維持することの意義深さを実感しています。

志田さんは「生まれ育った地域を大切に思い、会員と共に里山の資源を守りたい。それは義務ではなく、自分自身が楽しむことで自然とつながっていくもの」と語ります。土屋さんは、「みんなで種をまき、実った作物を共有できるのはとても良い経験。普段の生活では出会わない世代との交流も楽しい」と活動の魅力を語ります。

未来へ引き継ぐ

借りている耕作放棄地に隣接する休耕田の解消や、管理のマンパワー不足といった課題はありますが、お二人からは、前向きに取り組もうとする姿勢を感じます。

身体を使い、自然と向き合い、人と人が触れ合い活動する時間は、現代では貴重な体験です。里山の維持は生き物・自然・地域社会・文化・健康のすべてを豊かにする取り組みです。それらをもたらす里山の価値にもっと目を向けてもらえるよう、ミッション達成のためにアイデアを重ね、里山という地域の宝を未来へ引き継いでいくことを期待しています。

※一緒に楽しく活動してみませんか？会員募集中です！



HP



左から志田さん、土屋さん

◇理事長：須藤九十九さん
(問合せ・kumomoyo.5@gmail.com)
【情報提供・志田忠弘】



レポート：鈴木千春 編集委員



創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



牛渕公民館での反省会で食べるソバを打つ会員



3メートル近く伸びた茶の木を伐採



高根神社の横に広がるソバ畑

農村と街の住民がそばづくりで交流と地域再生

アグリろくごうそばづくりクラブ（菊川市）

発足のきっかけと歩み

菊川市六郷地域では、農村部の牛渕地区と新興住宅地の青葉台区の住民が手を組み、耕作放棄地を活用したそばづくりを通じて、地域交流と活性化に取り組んでいます。

かつては交流がなかった牛渕と青葉台でしたが、平成28年、六郷まちづくり協議会が主催した自治会役員の研修で同じグループになったことから「街部と農村部の交流や牛渕の耕作放棄地を有効活用したい」と声が上がり、牛渕に市民農園が誕生。その後、利用者から「そばづくりをしてみたい」との希望が寄せられ、令和元年に「アグリろくごうそばづくりクラブ」が発足。現在は青葉台16人、牛渕11人、計27人の会員が活動しています。活動費は年会費、そば打ち体験料、助成金等で賄っています。

栽培とそば打ち体験

活動は大きく二つ。牛渕でのそば栽培と、青葉台でのそば打ち体験です。令和7年には新たに荒廃茶園をそば畑に造成。9月に種をまき、11月には120kgを収穫しました。約80kgのそば粉が完成予定です。収穫したそば粉は、毎月青葉台で開催される会員向けのそば打ち体験で消費され、農作業の成果を実感できる活動となっています。また、12月には牛渕公民館で活動反省会を開き、近所の方もご招待しそばを振舞います。

街と農村の相乗効果

この活動で最も印象的なのは、街部と農村部の交流が日常的になっていることです。街部の方は活動日以外でも自主的に畑の整備をしています。「牛渕の農家の方の働きぶりを知り手伝いたくなった。喜んでもらえ嬉しい」と街部の鈴木さんが言うと「皆の力でソバの花が咲いた時は感無量だった」と農村部の鈴木さん。村の中心にある神社横の荒廃茶園が、一面に白い花が咲くソバ畑に生まれ変わった景観は、地域の新たな魅力になり、会員の声からも交流の喜びが伝わります。街部の岩瀬さんから「農業体験

を通じて農業の尊さを学びました」と活動を通じて得られる学びも語られます。

笑顔の種まき

「この横の繋がりは災害の時にも強い力を発揮すると思います」と農村部の後藤代表。街部と農村部が喜びを分かち合いながら活動する姿は、まさに「笑顔の種まき」。人を喜ばせることができ自分の喜びにつながるという理念が、会員の皆さん活動に息づいています。

今後の展望として、現在栽培している白い花の品種に加え、「赤い花のソバも育て、紅白の花畑を楽しみたい」という夢が語されました。地域に継続的に関わり愛着を持って活動する姿は、耕作放棄地活用の好事例になりうる活動です。



左から街部の鈴木さん、岩瀬さん、農村部の鈴木さん、後藤さん

◇代表:後藤昇一さん(問合せ・0537-36-4323)

【情報提供・松村真衣】



レポート：鈴木久雄 編集委員

コニギ のりづき・りんか



地域情報を寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856

静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階

[TEL] 054-251-3585



[FAX] 054-250-8681



[URL] <http://www.sizcom.jp>



[E-mail] sizucom0829@po.across.or.jp

令和7年度 コミュニティカレッジ終了!



通算46回目となるコミュニティカレッジが11月8日に終了しました。

最終日のワークでは、お互いの課題について話し合い、プレゼンを行い、終了いたしました。今年度は計17人が修了し、昭和55年からの修了者は2,430人です。

地域活動に関心のある方へ!

お知らせします

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

コミュニティ・フォーラム2026

今こそつながる地域コミュニティで輝くこれからを拓く

2026年

2月7日(土)

10時30分～15時40分
プラザおおるりホール
(島田市中央町5番の1)

入場無料



プログラム

- 10:00～受付
- 10:30～開会 主催者・来賓挨拶
- 10:50～表彰式 令和7年度コミュニティ活動賞
- 11:10～基調講演
- 12:10～休憩
- 13:00～活動事例発表 令和7年度活動賞 優秀賞受賞団体
- 13:40～休憩
- 13:50～パネルディスカッション
- 15:40～閉会

基調講演 講師
人間の力を諦めない
コミュニティは安心の「幸せ保険」



茨城県生涯学習・社会教育研究会会長
長谷川幸介 氏

主催 静岡県コミュニティづくり推進協議会 共催 島田市 コミカレ・ねっとわーく
後援 静岡県 静岡県市長会 静岡県町村会 (公財)静岡県市町村振興協会 (公財)静岡県グリーンバンク (公財)あしたの日本を創る協会

パネルディスカッション 「楽しいを創る、地域コミュニティを語る」

●パネリスト

- 河村晴夫 氏 (六合コミュニティ委員会 会長島田市)
- 齋藤統也 氏 (清水岡地区堂林自治会 IT委員静岡市清水区)
- 鈴木紅香 氏 (向笠地域づくり協議会 向笠PR部 磐田市)

●コメントーター

- 長谷川幸介 氏 (茨城県生涯学習・社会教育研究会会長)
- コーディネーター
平田 厚 氏 (静岡福祉文化実践研究所 所長)



参加申込フォーム



常務のつ・ぶ・や・き

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新しい年を迎えて、思うことは様々。昨年は、これまでで一番暑い年だった。熊もたくさん出没し、いやな事件、災害もたくさん起こった。世界を見れば、紛争・争いは相変わらずだ。今年こそは是非とも、良い年になって欲しい。いや、絶対良い年にしたい。

近年、コミュニティの弱体化、自助・共助に対する意識の希薄化などの社会の変化により、地域コミュニティは厳しい状況にある。こんな時だからこそ、地域コミュニティのこれからをしっかりと考えていきたい。そのきっかけとして、2月7日に島田市で開催される「コミュニティ・フォーラム2026」で、講師の長谷川先生、パネリストの皆さん、コーディネーターの平田先生、会場の皆さんと共に議論を深めていきたい。多くの方々の参加を期待する。